

令和7年度 水産試験場研究発表会

日時：令和8年2月27日（金）

場所：水産試験場（本場）研修室

開催趣旨

本県の漁場環境をみると、貧酸素水塊の発生や、干潟・藻場の喪失に加えて、近年では水質規制の進捗に伴う、栄養塩類の顕著な減少による漁場生産力の低下が問題となっています。また、内水面漁業は、養殖業における種苗確保の不安定性や疾病の発生等が生産者の経営を圧迫しています。

このように、本県水産業を取り巻く状況は、依然として厳しいのが現状ですが、本来、本県水産業は、伊勢・三河湾や渥美外海をはじめとする多彩な漁場環境を有し、また、消費を担う大都市圏の背後に位置する立地条件から、高い優位性を得てきました。これらの利点を十分に活かしながら厳しい現状を克服し、将来にわたり、あいち発の新鮮で安全な水産物を供給することが強く求められています。このためには、健全な生態系の回復に向けた研究と、革新的・戦略的な技術開発を加速させることが不可欠です。

水産試験場では、令和3年度から7年度までに達成すべき目標を定めた「愛知県農林水産業の試験研究基本計画（2025）」に基づき試験研究が進められています。この研究発表会では、試験研究で得られた成果のいくつかを報告し、目標の達成度、今後の展望などについて幅広く討論します。

プログラム

1 開 会 (13:00)

2 あいさつ

3 趣旨説明

4 記念講演 (13:05)

Ai-FISHの活用について (場長：岡田 元)

巴川における人工飼育海産アユの放流について (内水面漁業研究所長：鯉江 秀亮)

5 研究発表 (13:45)

(1) 豊川水系における天然遡上アユの有効活用について

(冷水魚養殖グループ：小椋 友介)

(2) カレニアミキモトイの発生予察に向けて

(漁場保全グループ：河住 大雅)

(3) トラフグの年齢分解と資源管理の取り組み

(海洋資源グループ：荒木 克哉)

〔休憩 (14:35～14:50) 〕

(4) 生分解性素材を用いたアサリ保護育成技術の開発

(栽培漁業グループ：稻葉 博之)

6 特別講演 (15:45)

2025年度水産海洋学会 若手優秀講演賞研究

餌料環境の違いによるアサリを中心とした干潟生態系の生物量と水質の変化

(漁場改善グループ：和地 柚貴)

7 総合討論 (16:10)

8 閉 会 (16:30)